



学内リサイタル講座  
選抜生による特別ジョイント演奏会

2023年3月5日(日)

開場 14:10 / 開演 14:30

会場：洗足学園 前田ホール

主催 洗足学園音楽大学・大学院

ご挨拶

## Message

2022年度学内リサイタル講座「選抜生による特別ジョイント演奏会」にお越しいただきありがとうございます。

本日演奏する学生達は、昨年6回にわたる前田ホールのコンサートシリーズで審査を経て選ばれた9名です。審査は様々なコースの教員で行われ、専門性だけでなく、音楽性、表現力、パフォーマンス力、舞台マナーなど様々な角度からの評価が行われました。演奏家を目指す若者にとって、大きな緊張感の中で、自分の音楽への責任を背負ってソロで舞台に立つことこそ成長への大きなステップとなります。

ご来場の皆様には、本日のバラエティーに富んだプログラムを楽しんでいただければ幸いです。また、将来の活躍が期待される若いソリストにあたたかい拍手をお願いいたします。

洗足学園音楽大学 学部長  
小嶋 貴文

2022年度学内リサイタル講座「選抜生による特別ジョイント演奏会」によろそいらっしやいました。この講座は2002年度に専攻レッスン以外の必修講座としての演奏会実習ゼミの中で、4年生のみが履修し前田ホールにおいて、複数人によるジョイントリサイタルを行う演習授業として開講され今年で20年を迎えました。

「選抜者による特別ジョイント演奏会」は、コロナ禍以前は表参道カワイ楽器パウゼ、南青山アリストホール、ドルチェ楽器アーティストサロン“dolce”という学外で開催しました。ここ2年間は我々のホームであるここ前田ホールで開催いたしております。今回記念すべき20周年をもちまして私は定年のためこの講座を後進に譲ることになりました。毎年48名から100名が履修しソロを体験し、現在では欧米、中国など世界中で活躍する卒業生を輩出したこの講座に誇りを持って修了する事は大変な喜びでもあります。

本日はその有終の美を飾る代表者等です、その力のこもった熱演を、ご来場のみなさまと聴くことが何よりの楽しみです。今後の彼らの活躍を期待しつつ拍手で送り出そうと思います。繰り返しになりますが、今後の期待と応援の拍手をお願いいたします。

学内リサイタル講座担当  
洗足学園音楽大学・大学院教授 渡部 亨

# Program

## 1.石塚 紫音莉 (Sop.)

Pf. : 岡崎 渚沙

山田 耕筰 / 歌曲集「風に寄せてうたへる春のうた」より 青き臥床をわれ飾る

木下 牧子 / 歌曲集「花のかず」より 竹とんぼに

木下 牧子 / おんがく

C.M.v. ウェーバー / 歌劇「魔弾の射手」より ある日私の死んだ伯母さんが夢を見たの  
*Carl Maria von Weber // "Die Freischütz" Einst träumte meiner sel'gen Base*

## 2.町田 花音 (Fl.)

Pf. : 渡部 有子

P.タファネル / 魔弾の射手による幻想曲

*Paul Taffanel // Fantasy on "Der Freischütz"*

## 3.小嶋 みのり (Pf.)

M.ラヴェル / 亡き王女のためのパヴァーヌ

*Maurice Ravel // Pavane pour une infante défunte*

M.ラヴェル / 夜のガスパールより「スカルボ」

*Maurice Ravel // Gaspard de la nuit "Scarbo"*

休憩

## 4.宮本 菜摘 (Ob.)

Pf. : 森 りか

A.パスクッリ / ドニゼッティの歌劇「ポリウト」の主題による幻想曲

*Antonio Pasculli // Fantasia sull' opera "Poliuto" di Donizetti*

## 5.矢澤 亘 (Sx.)

Pf. : 弘中 佑子

J.イベル / アルトサクソフォンと 11 の楽器のための室内小協奏曲

*Jacques Ibert // Concertino da camera pour saxophone alto et onze instruments*

## 6.櫻井 秀悠 (Mar.)

和太鼓 : 横木 秀真

藤井 むつ子 / ~和太鼓とマリimbaのための~「都じょんがら」



休憩

7.石倉 雄太 (Euph.)

Pf. : 小林 百香

石倉 雄太 / 悪夢

8.村木 夏帆 (Pf.)

C.ヴァイン / アンネ・ランダ・前奏曲集 より 12.コラール 11.フゲッタ

*Carl Vine // The Anne Landa Preludes 12.Chorale 11.Fughetta*

C.ヴァイン / ピアノ・ソナタ 第1番 より 第1楽章

*Carl Vine // Piano Sonata No.1 1st movement*

9.小野寺 俊介 (Mar.)

指揮：古川原 広斉 弦楽合奏：弦楽器コース学生

E.セジュールネ / マリンバと弦楽の為の協奏曲 (2006年 ver.)

*Emmanuel Sejourne // Concerto for Marimba and Strings Version 2006*

第1楽章 Tempo souple (しなやかに)

第2楽章 Rythmique énergique (リズムカルかつ精力的に)

プロフィール & 曲目解説

## Profile & Program Note

### 1.石塚 紫音莉

東京都出身。洗足こども短期大学を首席で卒業後、保育士を1年間経て編入学し、洗足学園音楽大学音楽学部声楽コース4年在学中。2022年度声楽コース特別選抜生。2019年度、2022年度前田記念奨学金奨学生。

4歳より江東少年少女合唱団に所属し、これまでにバーミンガムロイヤルバレエ団、ロシアワガノワバレエ団、東京シティ・バレエ団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団など多数共演し、バレエ「くるみ割り人形」「真夏の夜の夢」、オペラ「夕鶴」「道化師」「トゥーランドット」等に児童合唱として出演。現在、卒団生で結成された合唱団 Koto Youth Choir 団員。第30回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール声楽部門高校生の部全国大会第5位入賞。

2022年度洗足学園音楽大学オペラ公演「魔笛」にパパゲーナ役で出演。

これまでに声楽を細谷美直、飯田千夏、鶴木絵里の各氏に師事。



## 山田 耕筈 (1886-1965) / 「風に寄せてうたへる春のうた」より 青き臥床をわれ飾る

歌曲集『風に寄せてうたへる春のうた』の第1曲目に登載されているこの曲は、山田耕筈の作品の中では珍しい、陶醉感溢れる流麗なメロディが非常に印象的な曲である。その中でも七五調のリズムやポルタメントを使った山田節を感じることができ、春の訪れと熱き恋のときめきをしみじみと噛み締められる幸福感いっぱいの音楽となっている。ここでは、“われ”とは“春”のことを表し、さらに“恋”とも捉えることができるが、青春時代の若き恋を祝福する華やかな一曲となっている。

## 木下 牧子 (b1956-) / 「花のかず」より 竹とんぼに

歌曲集『花のかず』はシンプルな言葉で奥深い世界を描き出す岸田衿子氏の詩をテキストに、優しさ、切なさ、幻想、言葉遊びのユーモア、といったさまざまな表情を9編にまとめている。作詞者の詩は子ども向けの詩が多いが、この歌曲集の詩は思春期の頃の甘酸っぱい気分を思い出すような詩となっている。そして、その頃の未来への希望や可能性はどこまでも広がって行く一方で、不安が感じられる。そしてすごく懐かしく、少しむずがゆいような気持ちになる。この曲もしっかりストーリーがあってとても印象に残り、その世界観そのままの、みずみずしさや初々しさが感じられる1曲となっている。また、友達や恋人、大切な人と離れてもここ（この“場所”なのか、心の繋がりなのかは人それぞれではないだろうか）を忘れないでほしいという想いを情感たっぷりに歌う。

## 木下 牧子 / おんがく

この曲は、もともとはアカペラ合唱曲として作られたが歌曲版の要請が多かったため、編曲されて歌曲版が誕生した。この詩は「おんがく」そのものへの根本的な喜びや、嬉しさを感じることができる。太平洋戦争にも召集されているまど・みちお氏、その時は創作活動も思うようにはできなかった状況下ではないだろうか。この詩からは当時の状況下での芸術活動や音楽への「渴望」「飢餓感」といったようなものも感じられる。そして、優しいようでいて、すごく強い言葉を感じることができる。

現実の辛い出来事や暗いニュースなど、全てを忘れて“おんがく”に浸ってほしい、そんな想いが感じられる。また、たったひとつの音楽かもしれないが、音楽によって平和な世界になっていくことを願う。

## Carl Maria von Weber (1786-1826) // “Die Freischütz” Einst träumte meiner sel’gen Base

ウェーバーは、ドイツのロマン派初期の作曲家で、モーツァルトによるドイツオペラの伝統を継承し、歌劇「魔弾の射手」によってドイツ・ロマン派のオペラ様式を完成し、ワーグナーへと流れを導いた。

マックスと結婚を控えたアガーテに不吉なことが次々と起こり、アガーテは不安を募らせている。そんなアガーテの不安を取り除こうと、従姉妹のエンヒェンは慰める歌を歌うのだが、例え話から始まるこの曲ではさらにアガーテの不安を煽ることになってしまう。例え話が終わる最後、「チャンチャン！」という日本語のオノマトペの表現が実にしっくりくる曲の変わり目も是非お楽しみいただきたい。そしてアガーテの様子を伺い、「怒っちゃった？花嫁は涙を流すものではないわよ！」とエンヒェンながらにアガーテを励まそうと元気よくアリアを歌う。

## 2.町田 花音



神奈川県出身。神奈川県立大和西高等学校を卒業、現在洗足学園音楽大学4年次在学中。

16歳よりフルートを始める。

フルートを小板橋沙織、渡部亨の各氏に師事。

室内楽を古川原裕仁、松本健司の各氏に師事。

### Paul Taffanel (1844-1908) // Fantasy on “Der Freischütz”

ポール・タファネルはフランスのフルート奏者、作曲家である。

ウェーバーのオペラ「魔弾の射手」原曲からピアノ伴奏による劇的な雰囲気が始まる。導入部はマックスが苦しみに耐えられないという叫びが表されている。序曲に続き、「アガーテの祈り」による美しいメロディが提示される。技巧的なパッセージを経て、「マックスの誓い」のテーマが奏された後、序曲ではフルートが奏する部分をピアノの右手で演奏し、テーマをフルートのヴァリエーションで聴かせる仕組みになっている。そして、フィナーレに用いられているのは「エンヒェンの軽快な力強いアリエッタ」、恋への憧れを歌うアリアを用いて、ポロネーズのリズムで進む。タファネル自身の原曲への愛着のうかがわれる作品である。

## 3.小嶋 みのり



山梨県出身。甲斐清和高等学校音楽科卒業。ピアノコース3・4年次アンサンブル・スタディクラスに在籍。

第13回さくら音楽コンクール最高位、2019年音の夢ピアノコンクール連弾の部にて第1位を受賞。オーディションにて選出され、「第21回やまなし県民文化祭音楽祭」に出演。学内より、第3回ピアノコース学内コンクールにて入選。2022年ピアノ・アンサンブル・コンペティションにて連弾部門・2台ピアノ部門ともに最優秀賞を受賞。

ピアノを長田美歩、清水将仁の各氏に、室内楽を浦壁信二、アンサンブルを泉ゆりのの各氏に師事。

### Maurice Ravel (1875-1937) // Pavane pour une infante défunte

モーリス・ラヴェルはフランスの作曲家で、この曲は1899年にピアノ曲として作曲された。パヴァーヌとは16世紀から17世紀にかけてヨーロッパで普及した舞踏の1つだが、当時の貴族たちが舞踏会場へ入場する際などに使われていたゆっくりと歩くようなものである。



題名にある「infante」とは、スペインの王女の称号であり、彼がルーヴル美術館を訪れた際に見たスペインの画家、ディエゴ・ベラスケスが描いたマルガリータ王女の肖像画から作曲の着想を得たと言われている。彼は、この曲の題名に「亡くなった王女の葬送の哀歌」ではなく「昔、スペインの宮廷で小さな王女が踊ったようなパヴァーヌ」という意味をこめていて、甘く穏やかなメロディーが王女への愛しさを思わせるが、どこか空虚さを感じさせる曲となっている。

もう戻ってこない過去の日々の思い出にさよならを告げ、今日も前を向き歩いていく。

## Maurice Ravel // Gaspard de la nuit “Scarbo”

この曲は、フランスの詩人ルイ・ベルトランによる詩集「夜のガスパール」から、ラヴェルが3篇取り上げ、題材にした組曲「夜のガスパール」の第3曲として作曲された。スカルボの他に、「オンディーヌ」、「絞首台」とあるが、どの曲も死者や悪魔、怪奇など幻想的な世界観を特徴としている。スカルボとは悪戯好きの妖精のことで、部屋の中を目まぐるしく不気味に駆けまわり、様々な悪戯をしていたと思えば、突然巨大化をし、青白くなり、ふと消える。この様子を、急速な連打音や連続するオクターブ、アルペジオなどの難技巧を盛り込み、恐怖を煽る不協和音を含めながら鮮やかに表現している。彼はこの曲を、作曲当時に最も演奏困難な作品だと言われていたバラキエフの「イスラメイ」を強く意識し、それを上回るような超絶技巧が必要な作品として作りあげた。

## 4.宮本 菜摘



茨城県出身。宇都宮短期大学附属高等学校卒業。同校の卒業演奏会に出演。

第21回ジュニア管打楽器コンクール第3位。第34回ジュニアクラシック音楽コンクール木管部門第2位。第15回日本管弦打楽器ソロ・コンテスト金賞。ハンスイェルク・シェレンベルガー、フィリップ・トンドゥル、トーマス・インデアミューレ各氏のマスタークラスを受講。

オーボエを田渕哲也に師事。室内楽を辻功、山根公男、松本健司の各氏に師事。

## Antonio Pasculli (1842-1924) // Fantasia sull' opera “Poliuto” di Donizetti

アントニオ・パスクッリはイタリアのオーボエ奏者、作曲家。作曲家としては、ドニゼッティやヴェルディのオペラを題材とした協奏曲や幻想曲等を多く残しているが、彼は「オーボエのパガニーニ」とも称される天才的なオーボエ奏者で、自身の持つテクニックを作品に反映させているため、彼の作品を演奏するには超絶的なテクニックを必要とする。

今回演奏する作品は、ドニゼッティの歌劇「ポリウート」を題材とした作品だ。

「ポリウート」は、キリスト教への迫害が続くアルメニアを舞台とした歌劇。主人公の行政官

ポリウートが密かに「禁じられた宗教」であるキリスト教に改宗し、殉教の道を選ぶという、実在した聖人ポリュクトゥスをモデルとした物語である。曲名には「主題による」とあるが、この物語の中で主人公らが歌うアリア、合唱曲が複数使用されている。

## 5. 矢澤 亘



長野県出身。長野県伊那北高等学校を卒業、現在洗足学園音楽大学学部4年次在学中。2020~'22年度前田記念奨学金奨学生。

サクソフォン四重奏で選抜を経て、第24~26回洗足学園室内楽演奏会及び日本サクソフォン協会主催音大生によるサクソフォン四重奏の夕べ2021~2023に出演。学内外のアンサンブル公演やレコーディング、また同学ミュージカルコースの公演に楽団員として多数参加。

サクソフォンを田中拓也氏に、室内楽を池上政人、貝沼拓実各氏に師事。ニキータ・ズィミン、須川展也各氏のマスタークラスを受講。京都アニメーション「響け！ユーフォニアム」公式吹奏楽団“プログレッシブ！ウインド・オーケストラ”メンバー。

### Jacques Ibert (1890-1962) // Concertino da camera pour saxophone alto et onze instruments

ジャック・イベルはフランスの作曲家。管弦楽作品や協奏曲、室内楽曲を多く作曲している。作曲の契機と献呈先はドイツのサクソフォン奏者シガード・ラッシャー(1907-2001)であるが、作曲にあたりイベルが助言を求めたフランスのサクソフォン奏者マルセル・ミュール(1901-2001)が初演を務めた。両者ともに、他の楽器と比較して新しい楽器であるサクソフォンの奏法やレパートリー及びカリキュラムにおいて偉大な奏者であり教育者である。この作品も、サクソフォンにおける現在まで非常に重要な作品の一つである。

#### 第1楽章 Allegro con moto

ソナタ形式。活気ある第一主題のあと、伸びやかで朗々とした第二主題が描かれる。展開部を経て第一主題のみが再現されて終わる。

#### 第2楽章 Larghetto-Animato molto

序奏を伴うロンド形式。序奏部ではレチタティーヴォ的なサクソフォンの独奏に続き、穏やかで憂いを伴う旋律が奏される。拍子が変わると活発なロンド主題が登場し、続いて奇想的で歯切れの良い副主題が描かれる。2つの主題が展開したのちカデンツァに入り、華やかな主題の再現を経て軽快に終結する。



## 6. 櫻井 秀悠



千葉県出身。千葉県立銚子商業高等学校情報処理科を卒業。第 32 回千葉県吹奏楽個人コンクール金賞。第 20 回洗足学園ジュニア音楽コンクール第 1 位、並びにグランプリ、YAMAHA 賞、岡田知之賞。第 25 回 KOBE 国際音楽コンクール優秀賞並びに兵庫県芸術文化協会賞。第 30 回日本クラシック音楽コンクール 最高位。第 1 回 IBLA GRAND AWARD JAPAN 管打楽器部門入選。第 1 回洗足学園音楽大学打楽器コンクール第 1 位。International Percussion ¡Youth! Competition 2021 (ベルギー) 第 1 位。International Online Music Competition Prof. Dr. Dobri Paliev 2022 (ブルガリア) Absolute 1 位、並びにグランプリ。第 37 回 日本管打楽器コンクールマリンバ部門第 2 位を受賞。2021 年 めざましテレビ「キラビト！」に出演。学年末実技試験において、2019 年度から 2021 年度の 3 年連続、成績優秀者に選抜される。

コンクール入賞にあたり、大学より前田音楽奨励賞を 3 度、万代晋也学長より打楽器コース初となる「学長特別賞」を授与される。2019 年洗足学園音楽大学主催の A. ミッターマイヤー氏 (ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席ティンパニー奏者) のマスタークラスを受講。また 2019 年ヤマハミュージックジャパン主催の第 14 回安倍圭子国際マリンバアカデミー、2020 年 米ニューヨークのジュリアード音楽院 打楽器サマーセミナーに参加し研修を積む。これまでに打楽器・マリンバを神谷百子、藤井むつ子、中村祐子、染谷太郎の各氏に師事。現在は洗足学園音楽大学打楽器コースで勤勉を積み、ソロ活動をより広げる一方、アンサンブル活動も盛んにおこなっている。

### 藤井 むつ子 / ～和太鼓とマリンバのための～「都じょんがら」

作曲者である藤井むつ子氏は、ニューヨーク・カーネギーホールでの演奏をはじめ、北米、ヨーロッパ・アジア等世界各国で、リサイタルやマスタークラスの開催し、三善晃、石井眞木等、邦人作曲家によるマリンバ作品の委嘱を積極的に行う、日本を代表するマリンバ奏者である。尚、2018 年まで本学打楽器コースの客員教授を務めた。

私と藤井むつ子氏との出会いは 2016 年の高校一年生の夏。本学のオープンキャンパスに伺った際、レッスンを担当してくださったのがきっかけだった。その後、むつ子氏のもとでマリンバを学び、大学・大学院進学、国内外のコンクール入賞等、音楽家としても、人としても大きく成長させてくださった恩師である。そんな中「大学生活 4 年間のいつか、都じょんがらを演奏してほしい」とメッセージをいただき「必ず演奏します」と、約束を交わしたのを鮮明に覚えている。だからこそ、私は、大学生活最後のこの演奏会で、師匠と交わした約束を果たすため、この作品を取り上げたのだ。

作曲家からコメントをいただいている。

「雪国生まれの私は、幼い頃から民謡や津軽三味線に親しんできました。今になって、ふとその頃が蘇る。特に、深く魂が震える三弦の躍動感や張りのある節回しは、この一竿だけが命の綱として生きてきた人の思いも息吹もしっかりと伝えてくれる。

《～和太鼓とマリimbaのための～「都じょんがら」》は、こうした遠い記憶の淵から生まれた。」  
(藤井むつ子)

今回は、世界的和太鼓奏者の林英哲氏の指導を受ける鼓弾所属、横木秀真(打楽器コース4年)の伴奏でお届けする。

日本人にしか表現できない"間"や"節"、そして"メロディー"を、大学生活4年間で磨かれた唯一無二の多彩なマリimbaの音色と共に、存分に楽しんでいただけるだろう。

## 7.石倉 雄太



長野県出身。長野県小諸高等学校音楽科卒業。同校の選抜者演奏会に出演。また、同校の選抜者で構成されるウィーン海外研修に参加し、ウィーン市立ムジーク・ギムナジウムにて自作曲の演奏を行う。現在、洗足学園音楽大学4年次在学。

『響け！ユーフォニアム』公式吹奏楽コンサート第5回・第6回定期演奏会、サマーコンサートにおいて、楽曲「響け！ユーフォニアム」のソリストをつとめる。『響け！ユーフォニアム』公式吹奏楽団 プログレッシブ！ウインド・オーケストラ コアメンバー。

第29回中部日本個人重奏コンテスト本大会個人の部において金賞(第1位)中日新聞社賞を受賞。第3回日本奏楽コンクール管楽器部門において審査員特別賞を受賞。第22回大阪国際

音楽コンクール管楽器部門金管 Age-U(大学生の部)において第2位を受賞。洗足学園音楽大学において、成績優秀者として前田記念奨学生に選ばれる。また、数々のコンクールに入賞したことから大学より前田音楽奨励賞を受賞。

作編曲家として作曲・編曲活動にも力を入れており、小諸警察署の展開する交通事故防止運動のテーマ曲を作曲し、同署より感謝状を贈呈される。作曲においては、第53回中山晋平記念音楽賞において優秀賞、第31回TIAA全日本作曲家コンクール室内楽部門にて審査員賞を受賞。

これまでにユーフォニアムを沼山紘史、岩黒綾乃の各氏に、作曲を増田達斗氏に師事。

### 石倉 雄太 / 悪夢

この作品は2023年1月頃に作曲した、ソロ・ユーフォニアムとピアノのための作品である。

私達は、夜になると眠りにつく。  
眠っている間に人々は様々な夢を見る。  
どこかで見たような景色、どこかで聴いたことのある音、

でも「何か」が違う。  
いるはずの人がいない。  
いないはずの人が語りかけてくる。  
こんなはずじゃなかった…。

目が覚めて、「悪夢」は夢で良かったと思うかもしれない。  
しかしそれは夢の「悪夢」だからこそ良かった。  
本当の「悪夢」は、現実を起こりうることだ。

## 8.村木 夏帆



東京都出身。中央大学附属高等学校卒業。ピアノ・プロフェッショナル・パフォーマンスクラスに4年間在籍。

2021年度洗足学園主催「電子オルガンによる管弦楽曲とピアノ協奏曲の夕べ」にソリストとして出演し、竹内聡氏と共演。モーツァルトのピアノ協奏曲第20番を演奏。2019-2022年、学内の「選抜学生によるピアノコンサート」に出演。オーディションにて選出され、「第28回東村山フレッシュコンサート」に出演。第32回日本クラシック音楽コンクール第5位入賞。小林仁、シュテファン・メラー、エリック・ルサージュ、アントン・シェラーの各氏によるマスタークラスを受講。現在、ピアノを松山優香、山田武彦、松山元の各氏に、室内楽を清水将仁氏に師事。

### Carl Vine (b1954) // The Anne Landa Preludes 12.Chorale 11.Fughetta

カール・ヴァインは1954年にオーストラリアのパーズで生まれ、オーストラリアの現代音楽を代表する作曲家である。基本的にはクラシック音楽の作曲家であるが、ダンス音楽や、1996年アトランタ・オリンピックの閉会式の音楽の作曲など、幅広い活動を行っており、現在はシドニー音楽院で後進の指導にあたっている。ヴァイン自身、熟練したピアニストであり、その音と空間のきらめき、多才さとウィットによって、現代のレパートリーの中で重要な位置を占めるピアノ曲の数々を創り上げてきた。

「アンネ・ランダ前奏曲集」は、オーストラリアのピアノ教育に多大な貢献を果たしたアンネ・ランダへの追憶として、ジョン・シャープの委嘱を受けて2006年に作曲された。全12曲で構成されており、それぞれに強い個性を放つ。作曲者自身のノートには、これらの前奏曲の1曲



または複数曲を、理由を問わず、どのような順序で演奏しても良いと記されている。  
本日は次に演奏するピアノ・ソナタ第1番への流れを意識し、12番コラール→11番フゲッタの  
順で演奏する。

### 第12番 Chorale

この曲集の中で最もメロディックで音色豊かな前奏曲。もともとコラールは讃美歌である  
が、この曲は宗教的というより民族的である。どの声部も美しく、どこか切ない響きがこの曲の  
魅力となっている。

### 第11番 Fughetta

この曲は、伝統的なフーガと現代音楽のスタイルを組み合わせている。単旋律で提示された主題  
は指数関数的にクライマックスへと発展していく。

## Carl Vine // Piano Sonata No.1 1st movement

ヴァインがシドニー・ダンス・カンパニーのために作曲し、1991年6月にノース・メルボルン  
でマイケル・ハーヴェイによって初演された。第1楽章はサイレントクラスター和音で始ま  
る。瞑想的な場面とエネルギッシュで躍動感のある旋律のコントラストが鮮やかで、無秩序の  
音列やグリッサンド、クラスターを効果的に用いている。明確な形式感や古典的な面を持ち合  
わせつつも、斬新かつユニークな作品である。

## 9.小野寺 俊介



埼玉県出身。武陽学園西武台高等学校卒業。現在、洗足  
学園音楽大学4年次在学中。2020・2022年度洗足学園音  
楽大学前田記念奨学金奨学生に選抜。

4歳よりピアノを福井俊子、渡部由記子の各氏に師事。  
第32回ピティナピアノコンペティション全国決勝大会  
金賞、第1回日本ベートーヴェンピアノコンクール全国  
大会優秀賞などを受賞。

16歳より打楽器・マリンバを中村祐子氏に師事。  
第21回日本ジュニア管打楽器コンクール第1位、第5回  
東京国際マリンバコンクール最高位、第32回日本クラシ  
ック音楽コンクール最高位などその他多数受賞。

富士山河口湖音楽祭 2021にて池上英樹、塚越慎子の各  
氏によるマリンバ・打楽器マスタークラスを受講。

## Emmanuel Sejourne // Concerto for Marimba and Strings Version 2006

指揮 古川原 広斉

弦楽合奏メンバー

Violin 1 頼近 友莉奈 勝部 小夏 佐々木 郁子 小林 彩

Violin 2 早川 萌音 米倉 海陽 長沢 明日香 松村 歩美

Viola 宮島 麻歩 小林 真子

Cello 佐々木 七穂 風見 章

Contrabass 小泉 聡一朗 福田 凧佐

作曲者のエマニュエル・セジョルネは1961年フランス生まれの打楽器奏者、そして作曲家として活躍しており、打楽器・マリンバソロ作品はもちろんの事、オーケストラや室内楽などジャンル問わず多くの作品を残している。

この曲は、オーストリアのリンツで行われた国際マリンバ・コンクールの為に作曲され、当時は今回演奏する2楽章形式の協奏曲であったが、2015年に、この作品を委嘱し初演を行ったマリンバ奏者、ボクダン・バカヌ氏の要望により、もう1楽章書き足された。世界中のマリンバ奏者に愛され、演奏されている作品である。

第1楽章は、弦楽合奏のしなやかな前奏から始まり、段々と厚みを増し、エネルギー溢れるマリンバソロを引き出す。マリンバソロが静まると、マリンバと弦楽合奏の長いフレーズで曲を盛り上げていく。頂点に達すると柔らかで抒情的なマリンバソロへと場面が移り変わり、この先何度も繰り返されるテーマを歌い上げる。そして弦楽合奏の長いフレーズの中でマリンバがテーマを歌い、掛け合いをしながら、曲を盛り上げていく。カデンツァをはさみながら、弦楽合奏とマリンバで壮大にテーマを歌い上げる。全てを言い切った後は、切なく悲しげなマリンバソロで、静かに幕を閉じる。

第2楽章は、1楽章と異なり、鋭い弦楽合奏の刻みとリズムカルなマリンバソロで始まる。弦楽合奏とマリンバの刻みで盛り上げ、テーマに繋げる。その後8分の11拍子へ移り変わり、作曲者が得意とするフラメンコを意識した曲想で進み熱気を増していく。しかし、中間部では先程までとは雰囲気が変わり、弦楽合奏が8分の11拍子で刻みながら、マリンバが色々な想いを表情豊かに歌い上げる。冒頭部のテーマへ戻り、さらに曲を盛り上げ、最後までエネルギーッシュに進んでいく。

スタッフ

上治 唯奏 神野 葵 飛田 都 吹上 萌 細谷 侑生

アカデミックコーディネーター

山田 州子

### 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。

- ・ 大声や対面での会話はお控えください。
- ・ 演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・ 休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・ 客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・ 出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・ 万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

### 公演収録に伴う一部のお客様の写り込みにつきまして

本公演では、映像収録および写真撮影用の機材が会場内に入り、ご来場のお客様の様子や映像・写真等に映りこむ場合がございます。収録された映像・写真等は、YouTube や SNS、ウェブサイト、テレビ、印刷・出版物等において、大学案内等のプロポーションやその他の目的で使用される可能性がございますので、予めご了承ください。